

学歴社会がもたらす 倫理規範への影響の検証

2011年度グループ演習最終報告会
4班 森竜一 林恵子 袁新堯

1

本日の流れ

1. 研究背景と目的
2. 調査方法
3. 結果
 1. 単純集計
 2. 分析
 1. クロス表集計
 2. U検定
4. まとめ

2

1. 研究背景



学歴社会

学歴によって社会的地位や
評価が定まる社会

→ 重要なことは高学歴の人が決めている

学歴社会って本当にいい社会？

↓
高学歴の人は社会全体の利益を考える？

↘ 東日本大震災

3

東日本大震災



- 被災地で**国と住民のため**に作業
- 津波警報を知らせ続けて殉職した職員
- 避難所において**助け合い生活**



- 不誠実な対応を続ける企業幹部
- **自己中心的な行動**
- 情報隠蔽や被災者支援の渋り

→ 必ずしも高学歴の人が社会全体の利益になる行動をとっているとは限らない

4

関連研究

知性とモラルの関係

コールバーグのモデル
知性の上昇がモラル上昇の必要条件

→ 東日本大震災の例を見ると一概にいけない

モラルに関する研究

鈴木ら(2006)、戸田ら(2007)の研究

→ 学歴とモラルの関係を調査したものは見受けられない

5

目的

対象：全国の大学生

学歴とモラルの関係を明らかにする

学歴社会に潜在するリスクを検証する

学歴以外にモラルに影響を与える要因も調査

6

2. 調査方法

▶ 調査方法：アンケート調査

各大学の教員に依頼し、授業において実施
大学の知人を通して実施

▶ 対象者：全国の大学生

学歴がばらけるように低偏差値から
高偏差値までまんべんなく抽出

▶ 内容：

大学生の日常生活における不正行為に関すること

7

アンケート内容

- ▶ 過去にどの程度行ったことがあるかを「全くない、ほとんどない、時々ある、頻繁にある」の4段階で回答してもらった。

自分が悪い行動をどの程度やっているかは答えにくい



工夫①

自分だけではなく、回答者の大学の友人の行動についても同様の質問を行った

工夫②

良い行動と悪い行動を織り交ぜて質問

8

アンケート内容

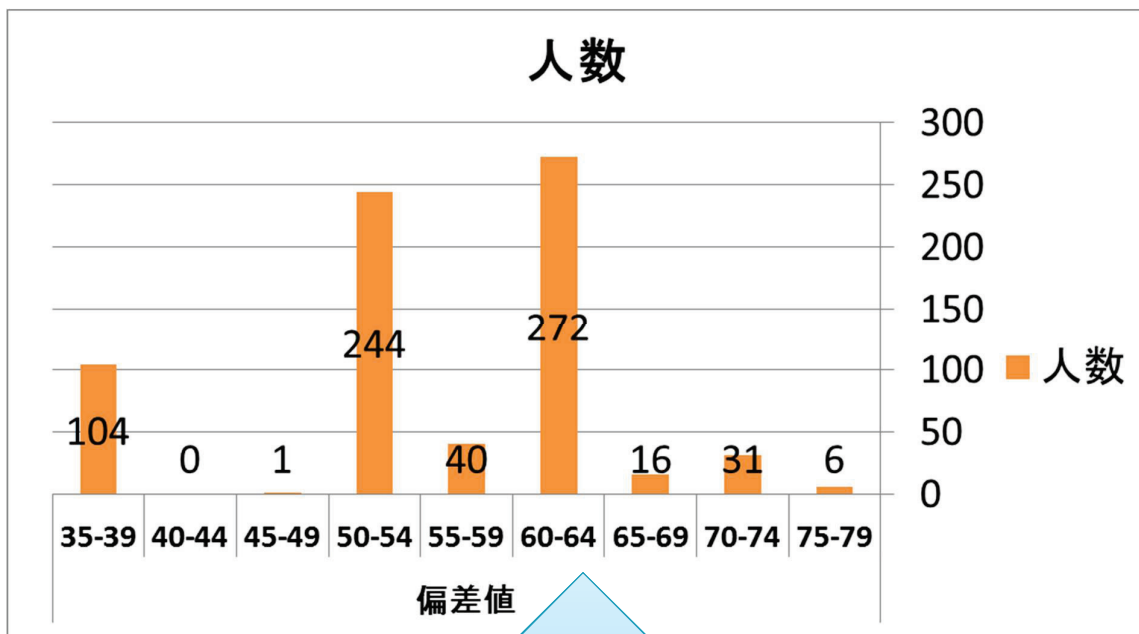
- ① ボランティア活動
- ② 千円以上の寄付
- ③ 献血
- ④ ゴミのポイ捨て
- ⑤ ゴミの分別
- ⑥ 大学構内に落ちているゴミを拾い
ゴミ箱に捨てる
- ⑦ 待ち合わせ時間に遅れる
- ⑧ 授業の代返をしてもらう
- ⑨ 試験でのカンニング
- ⑩ コピー&ペーストでレポートを作成し提出
- ⑪ 違法ダウンロード
- ⑫ 先生に年賀状を送る
- ⑬ 父の日・母の日にプレゼントを贈る
- ⑭ 未成年時の飲酒
- ⑮ 自転車の飲酒運転
- ⑯ 違法駐輪
- ⑰ 電車・バスで席を譲る
- ⑱ 電車・バス内での通話
- ⑲ 電車・バスの不正乗車
- ⑳ 万引き

赤字は
良い行動を示す

本人に関する質問
性別、所属大学、学部、学科
所属する部活・サークル
出身地、出身地の都会度
家族構成、両親の最終学歴

9

3. 集計結果

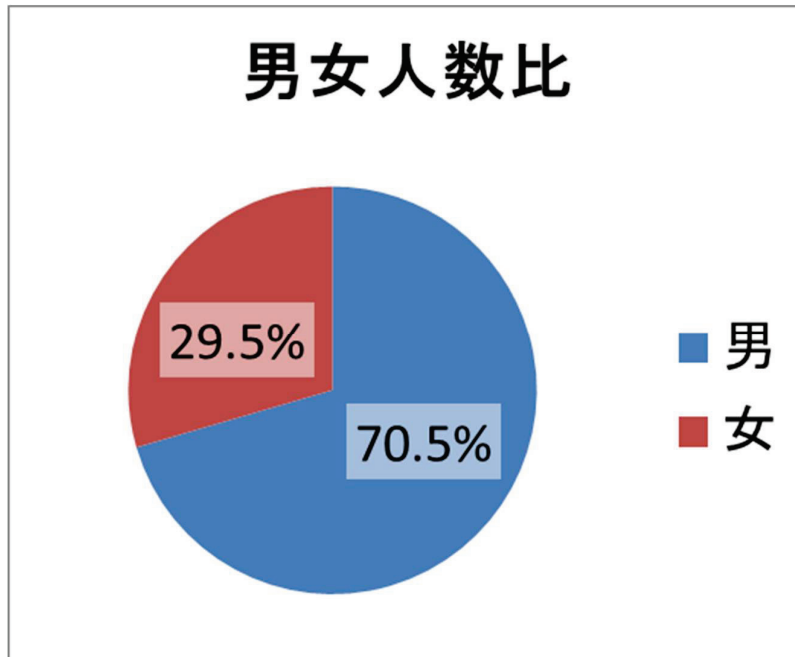


偏差値が36~77の間の
16大学
756名大学生

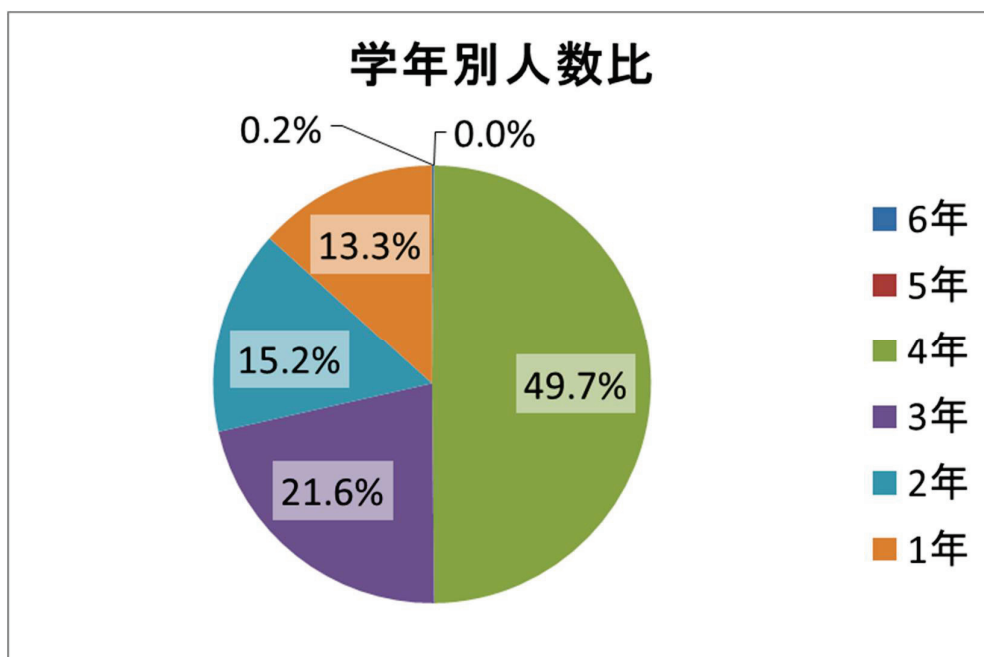
偏差値データ
「偏差値.com」HP
より

10

3. 集計結果



3. 集計結果



3. 集計結果:ポイント付け

- ▶ 日常行動に関する質問
 - 解答の選択肢にポイント付け
 - 友人の行動、本人の行動それぞれにおいて20項目のポイントを合計し、総合ポイントを算出

良い行動
ボランティア、寄付、献血 etc.
計8項目

悪い行動
代返、カンニング、違法DL etc.
計12項目

行動	全くない	ほとんどない	時々ある	頻繁にある
良い行動	0点	1点	2点	3点
悪い行動	0点	-1点	-2点	-3点

13

例)あるサンプルにおいて

友人の行動に関する質問

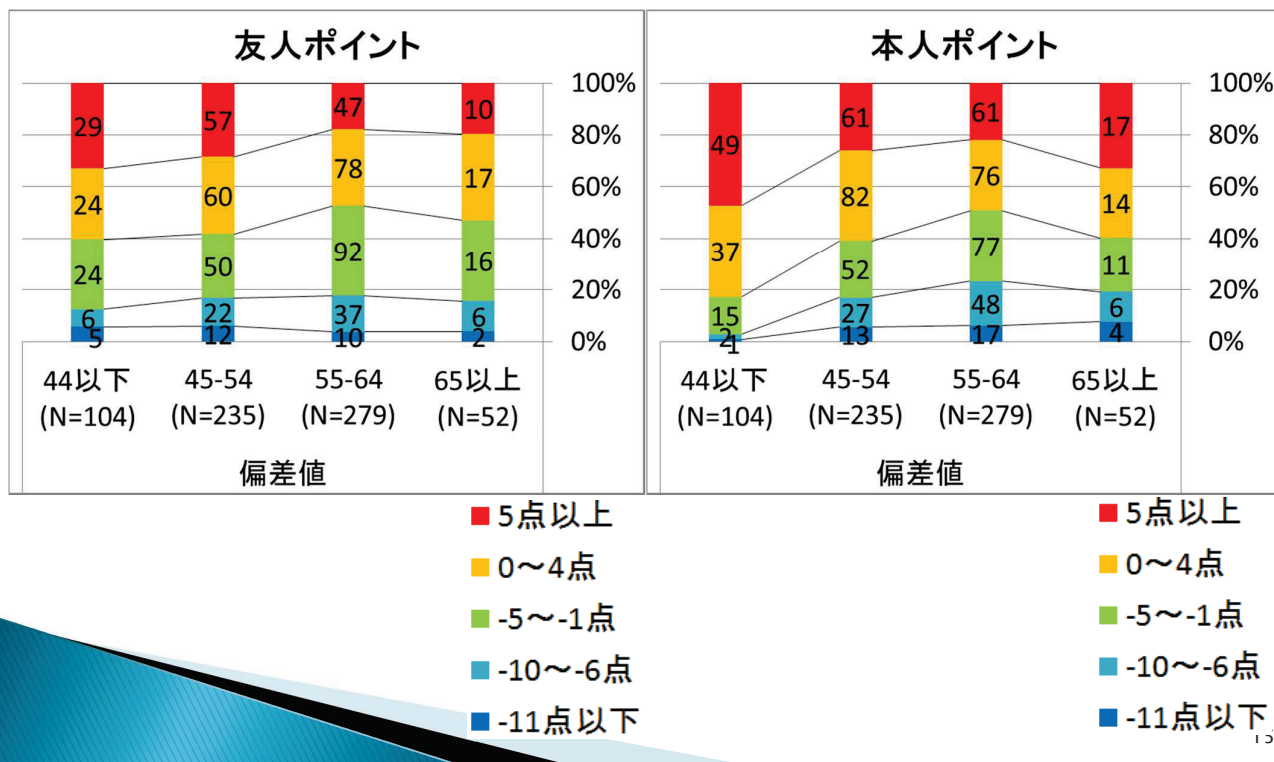
良い行動 8項目:「全くない」×2
「ほとんどない」×1
「頻繁にある」×5
悪い行動12項目:「全くない」×8
「時々ある」×4
 $(0点 \times 2) + (1点 \times 1) + (3点 \times 5)$
 $+ (0点 \times 8) + (-2点 \times 4) = 8点$

友人ポイント:8点

行動	全くない	ほとんどない	時々ある	頻繁にある
良い行動	0点	1点	2点	3点
悪い行動	0点	-1点	-2点	-3点

14

ポイント算出結果



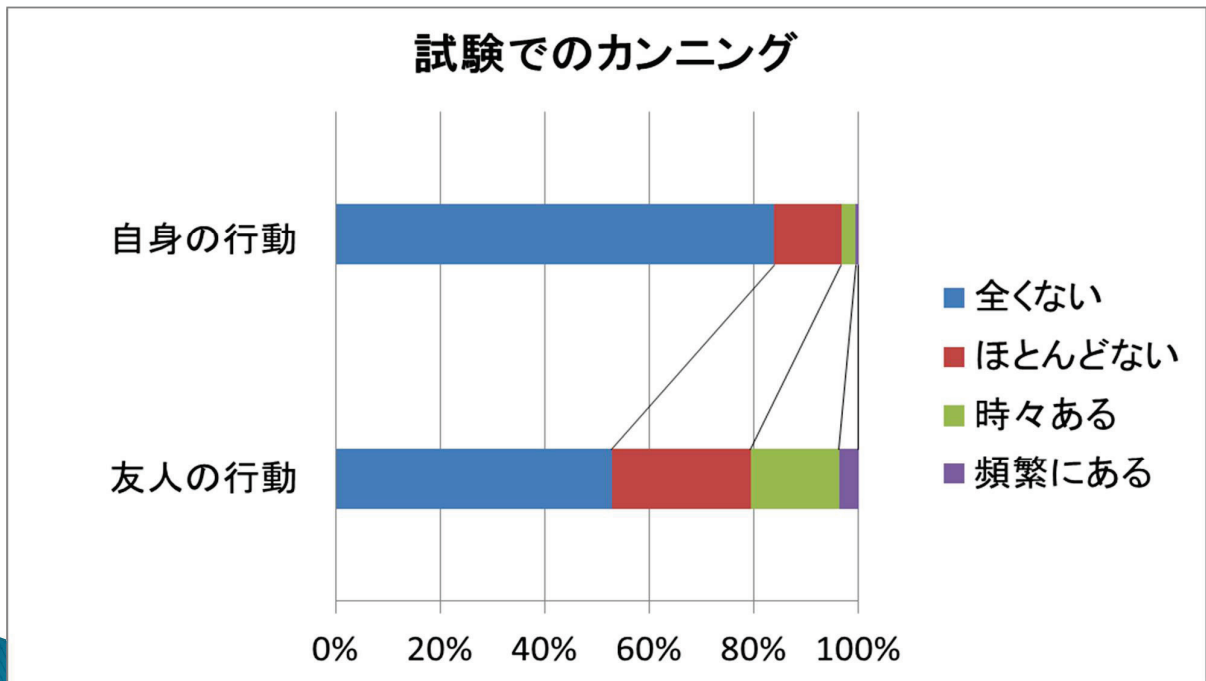
ポイント算出結果

ポイント算出結果として自身の行動よりも
友人の行動の方が悪い
 ように答えている傾向が見られた。



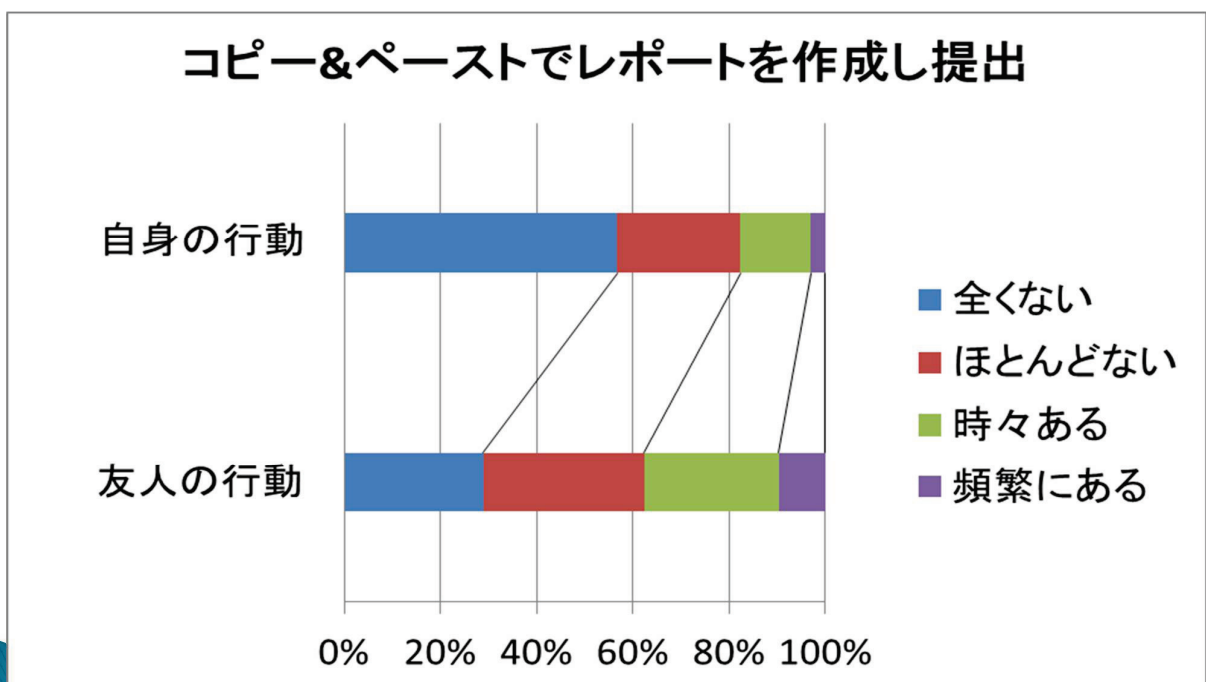
質問項目別に見てみる

顕著な質問項目①



17

顕著な質問項目②



18

- ▶ 以上グラフは友人の行動を悪く回答している、特に顕著な質問項目である。

特に**学業に関する質問項目**において友人の行動を悪く回答する傾向が見られた。
また**飲酒に関する質問項目**や、**違法ダウンロードに関する質問項目**においても友人の行動を悪く回答する傾向が見られた。

19

分析

友人の行動に関する質問

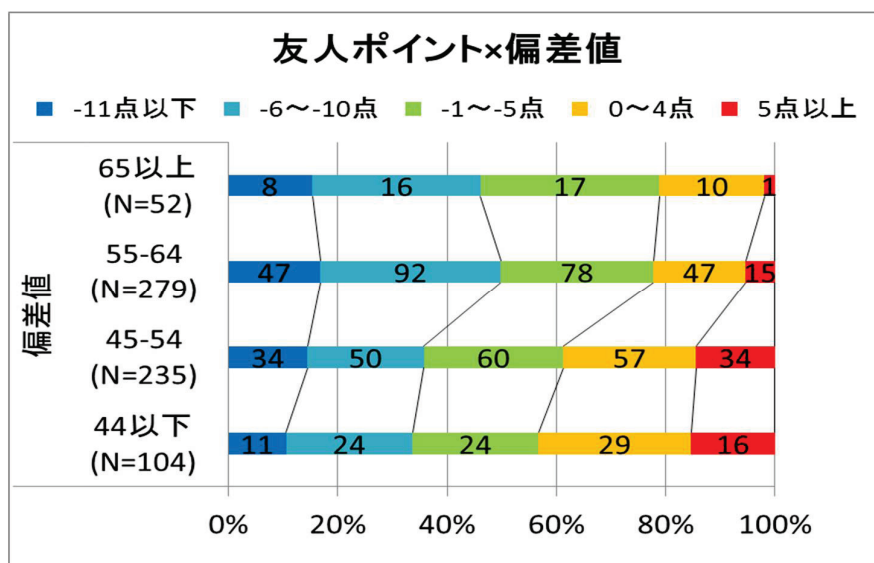
本人の行動に関する質問

- ・ 正直に答えているのでは
- ・ 丁寧に答えているのでは

- ▶ 主に、友人の行動に関する質問の回答を対象に χ^2 検定・U検定を実施

20

χ^2 検定：友人ポイント×偏差値

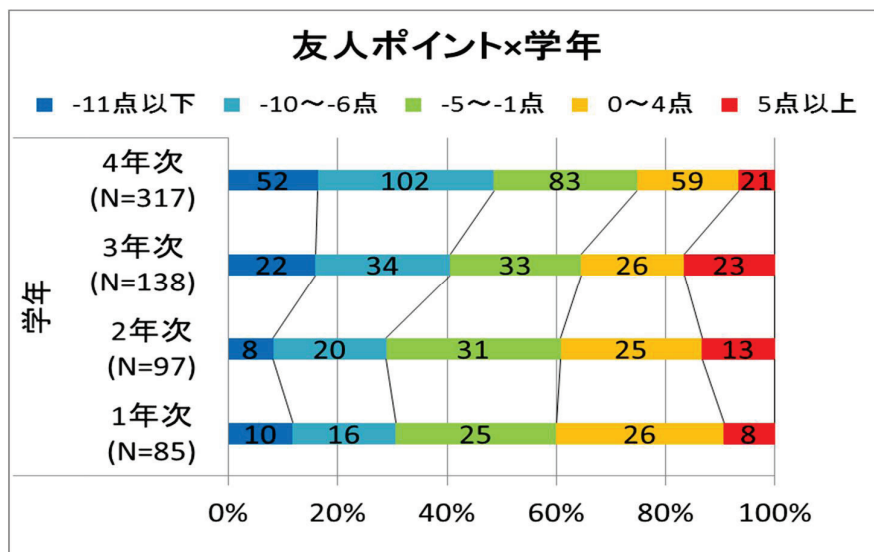


有意

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	33.98	12	.001

偏差値が高いほど友人ポイントが低い傾向がある

χ^2 検定：友人ポイント×学年



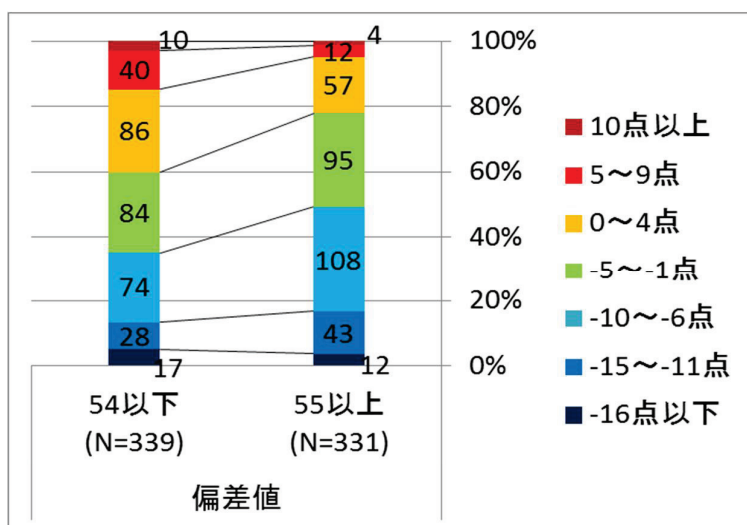
有意

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	29.15	12	.004

学年が高いほど友人ポイントが低い傾向がある

U検定

- ▶ 第1群:「偏差値55以上」の人の「友人ポイント」
- ▶ 第2群:「偏差値54以下」の人の「友人ポイント」



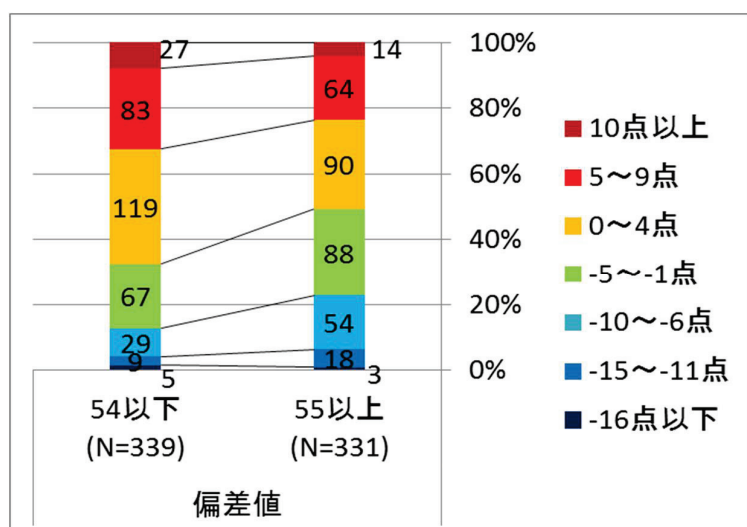
第一群 :	偏差値55以上	
	標本サイズ	331
	平均値	-4.98
	不偏分散	38.11
第二群 :	偏差値54以下	
	標本サイズ	339
	平均値	-2.82
	不偏分散	49.88
マン・ホイットニーの U 検定		
	n1	331
	n2	339
	U	4.49×10^4
	E(U)	4.61×10^4
	V(U)	6.26×10^6
	Z	4.47
	P 値	7.82×10^{-6}

偏差値が高いほうが低ポイントが多い
かつ、高ポイントが少ない

有意 23

U検定

- ▶ 第1群:「偏差値55以上」の人の「本人ポイント」
- ▶ 第2群:「偏差値54以下」の人の「本人ポイント」



第一群 :	偏差値55以上	
	標本サイズ	331
	平均値	-0.50
	不偏分散	44.78
第二群 :	偏差値54以下	
	標本サイズ	339
	平均値	1.52
	不偏分散	39.77
マン・ホイットニーの U 検定		
	n1	331
	n2	339
	U	4.49×10^4
	E(U)	5.61×10^4
	V(U)	6.28×10^6
	Z	4.46
	P 値	8.01×10^{-6}

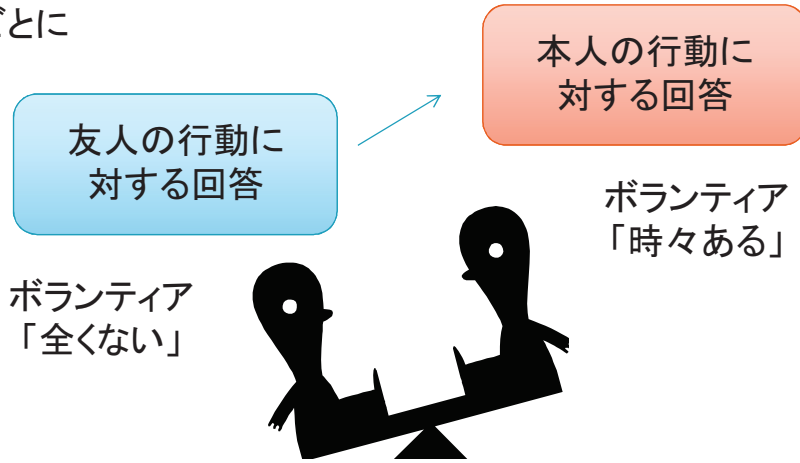
偏差値が高いほうが低ポイントが多い
かつ、高ポイントが少ない

有意 24

U検定

- ▶ 友人の行動に対する回答と本人の行動に対する回答との違いも検定

サンプルごとに

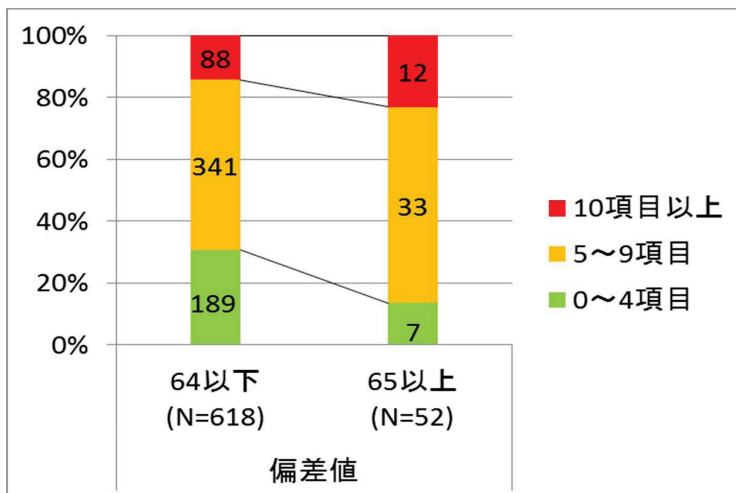


本人の行動のほうを良い方向に回答している項目数を算出

25

U検定

- ▶ 第1群: 「偏差値65以上」の人の「本人(良)、友人(悪) 項目数」
- ▶ 第2群: 「偏差値64以下」の人の「本人(良)、友人(悪) 項目数」



第一群 :	偏差値65以上	
	標本サイズ	52
	平均値	7.27
	不偏分散	7.26
第二群 :	偏差値64以下	
	標本サイズ	618
	平均値	6.17
	不偏分散	9.80
マン・ホイットニーの U 検定		
	n1	52
	n2	618
	U	1.26×10^4
	E(U)	1.61×10^4
	V(U)	1.78×10^6
	Z	2.61
	P 値	9.01×10^{-3}

偏差値が極めて高い人は、そうでない人に比べ自分の行動の方を良く回答する傾向が強い

有意²⁶

日常行動に関する質問項目 × 偏差値

- 友人の行動に関する質問20項目と偏差値とのクロスを取り、 χ^2 検定を実施(*=0.05未満、**=0.01未満)

有意な差が検出されたもの

偏差値が高くなるほど頻繁に行う

- ボランティア*
- ゴミの分別**
- 待ち合わせ時間に遅れる**
- 授業の代返をしてもらう
- 違法ダウンロード**
- 未成年時の飲酒**
- 自転車の飲酒運転**
- 違法駐輪**

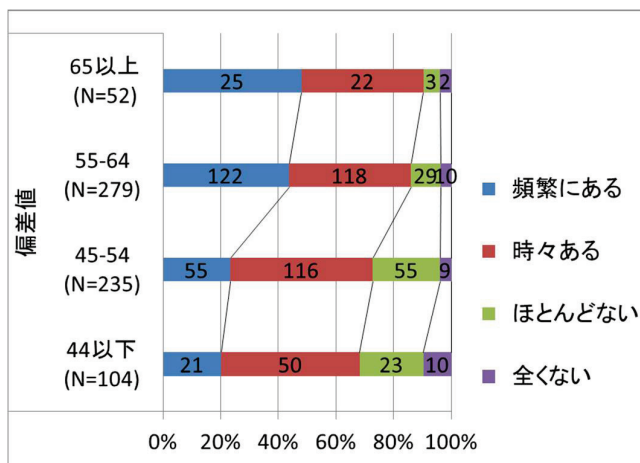
偏差値が低くなるほど頻繁に行う

- ゴミのポイ捨て*
- 千円以上の寄付*
- ゴミを捨ててゴミ箱に捨てる**
- 先生に年賀状を送る**
- 父の日・母の日にプレゼントを贈る**
- 電車・バスでの通話*

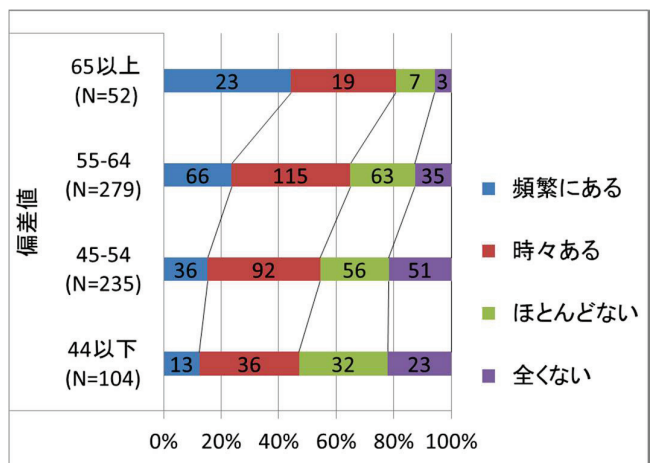
27

偏差値が高いほど 頻繁に行っている悪い行動

待ち合わせ時間に遅れる × 偏差値



授業の代返をしてもらう × 偏差値



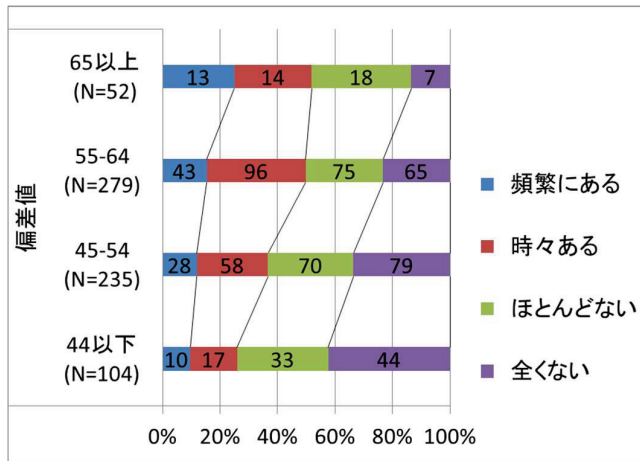
値	自由度	漸近有意確率 (両側)
51.91	9	0.001未満

値	自由度	漸近有意確率 (両側)
39.402	9	0.001未満

28

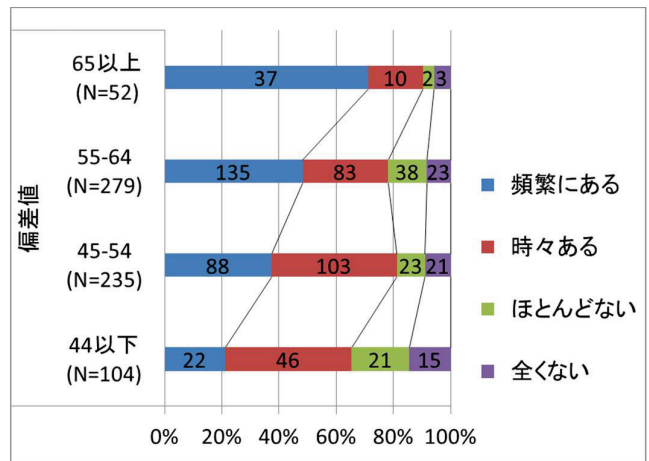
偏差値が高いほど 頻繁に行っている悪い行動

違法ダウンロード×偏差値



値	自由度	漸近有意確率 (両側)
33.99	9	0.001未満

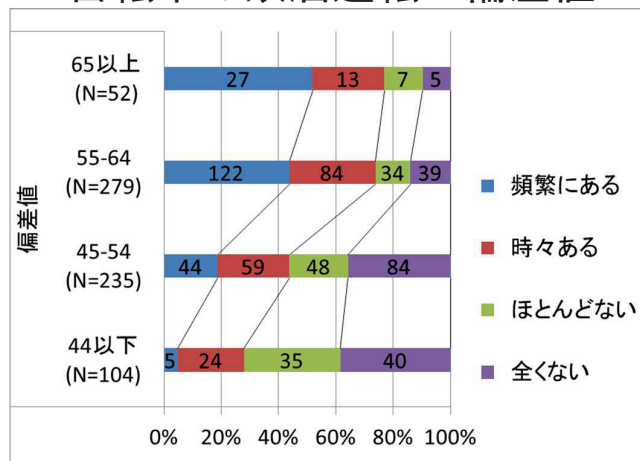
未成年時の飲酒×偏差値



値	自由度	漸近有意確率 (両側)
51.793	9	0.001未満

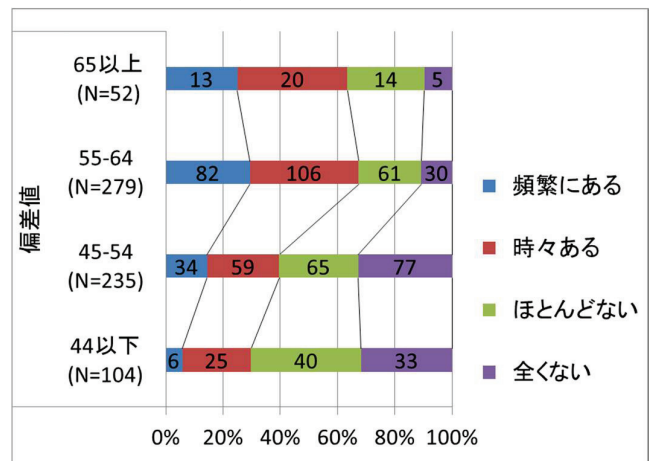
偏差値が高いほど 頻繁に行っている悪い行動

自転車の飲酒運転×偏差値



値	自由度	漸近有意確率 (両側)
117.49	9	0.001未満

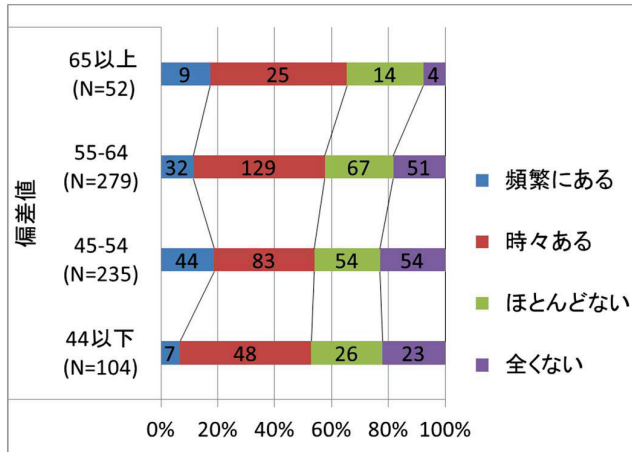
自転車の違法駐輪×偏差値



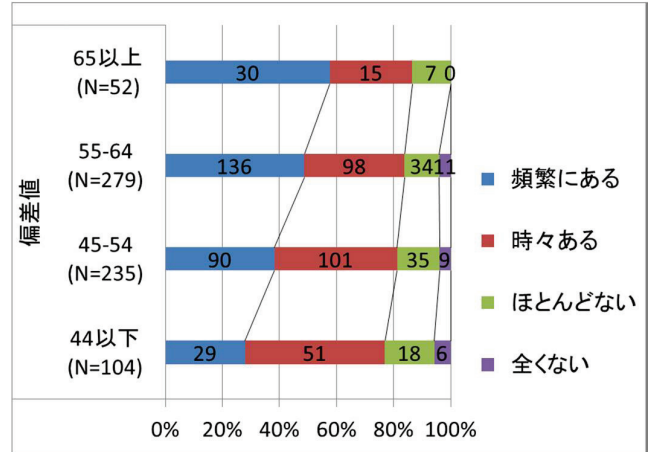
値	自由度	漸近有意確率 (両側)
81.28	9	0.001未満

偏差値が高いほど 頻繁に行っている良い行動

ボランティア×偏差値



ゴミの分別×偏差値



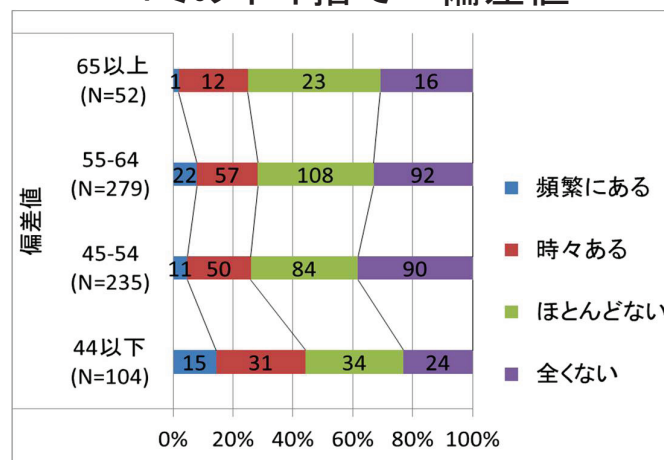
値	自由度	漸近有意確率 (両側)
19.98	9	.018

値	自由度	漸近有意確率 (両側)
22.12	9	.009

▶ 計 2項目

偏差値が低いほど 頻繁に行っている悪い行動

ゴミのポイ捨て×偏差値



値	自由度	漸近有意確率 (両側)
22.94	12	.028

▶ 計 1項目

偏差値が低いほど、頻繁に行っている良い行動は見られず

結果

- ▶ 総合ポイントを見ると、偏差値が高いほうが低ポイントが多くかつ、高ポイントが少ない
- ▶ 偏差値が極めて高い人は、そうでない人に比べ、自分の行動の方を良く回答している
- ▶ 有意な差が見られた14項目

偏差値が高いほど、
罰則がない or 見つかりにくいような
不正行為を頻繁に行う傾向がある

33

4. まとめ

アンケート調査により**学歴とモラルの関係を明らかにした**

- ▶ 高偏差値の人ほどポイントが低いという傾向が確認された
- ▶ 年次があがるごとにポイントが低くなる傾向が明らかになった
- ▶ U検定により偏差値が65以上の人は友人の行動よりも自分の行動をよく言う傾向が大きかった

34

考察

- ▶ 年次があがるごとにポイントが悪化

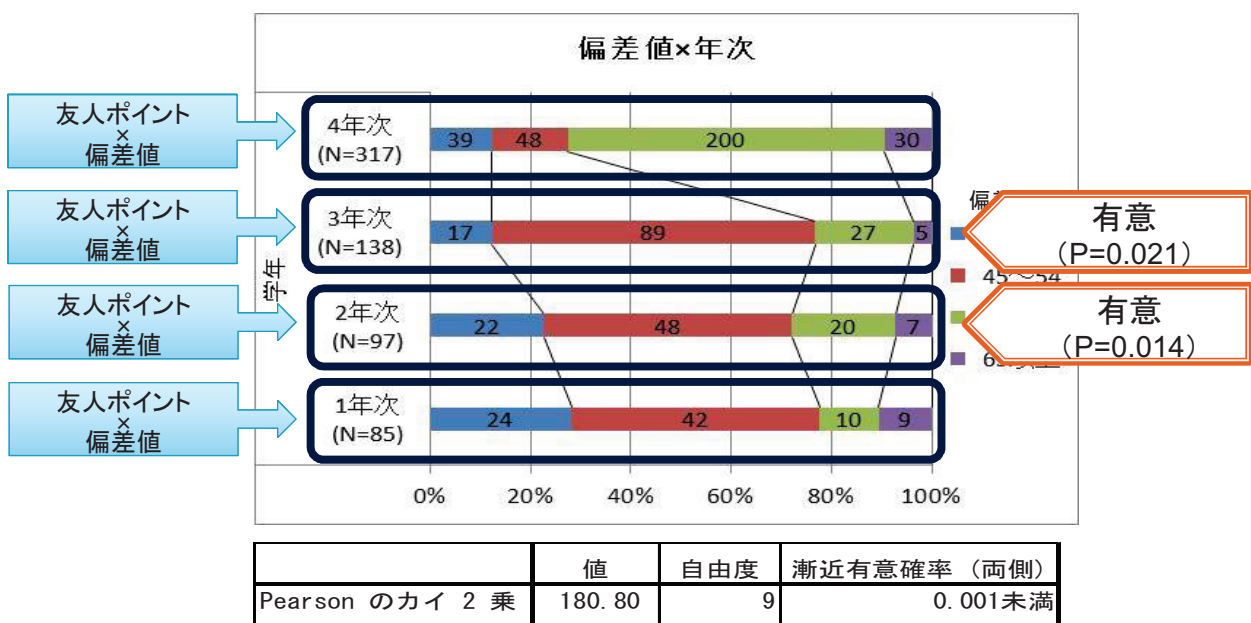
➡ 大学教育の改善

- ▶ 高偏差値の人ほどポイントが低い

➡ 偏差値が一定以上の大学における倫理教育

35

偏差値 × 年次

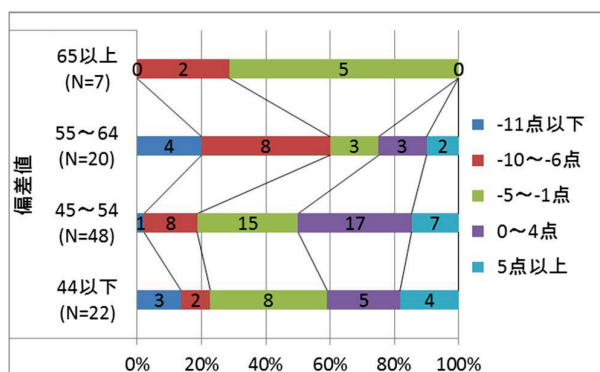


➡ 学年間に偏差値の偏りがある

36

学年と偏差値の関係についての検証

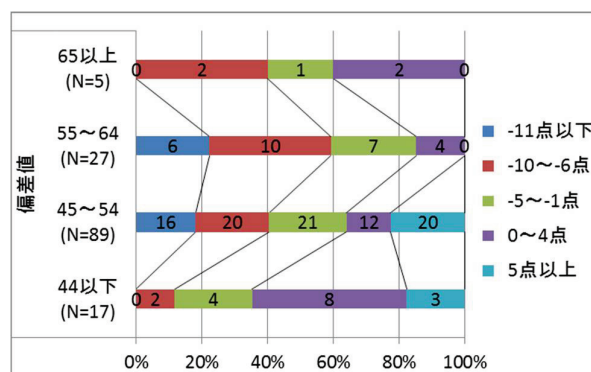
友人ポイント×偏差値
(2年次のみ)



値	自由度	漸近有意確率 (両側)
23.96	12	.021

有意

友人ポイント×偏差値
(3年次のみ)



値	自由度	漸近有意確率 (両側)
25.07	12	.014

有意

偏差値が高くなるほど友人ポイントが低くなる傾向あり

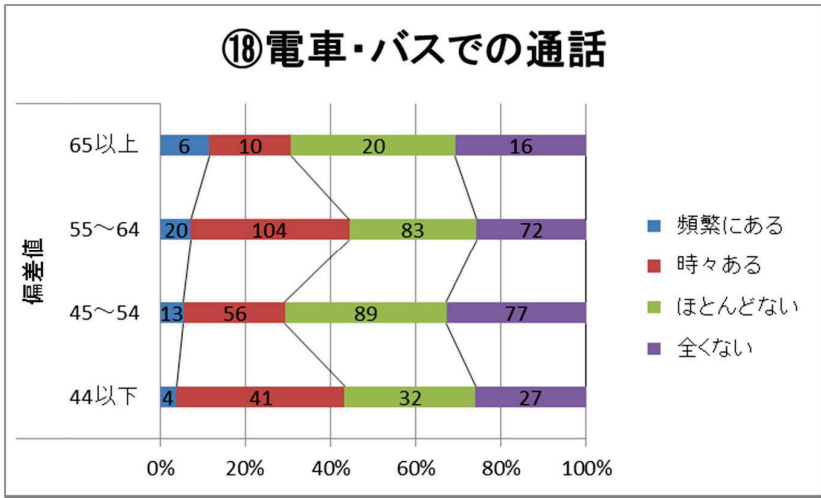
マン・ホイットニーのU検定

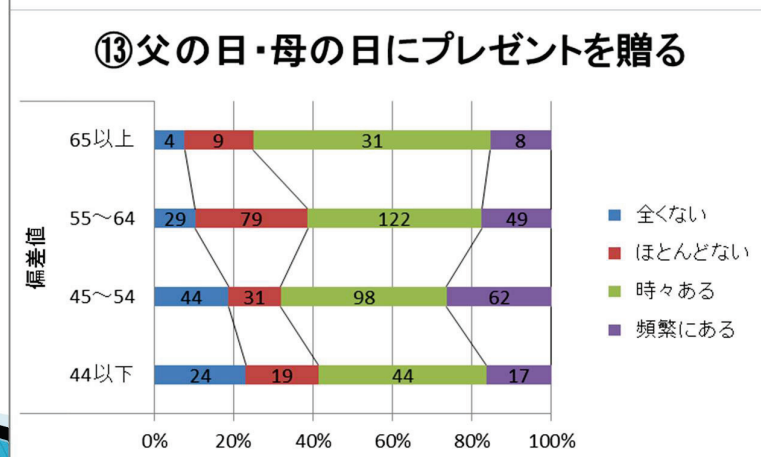
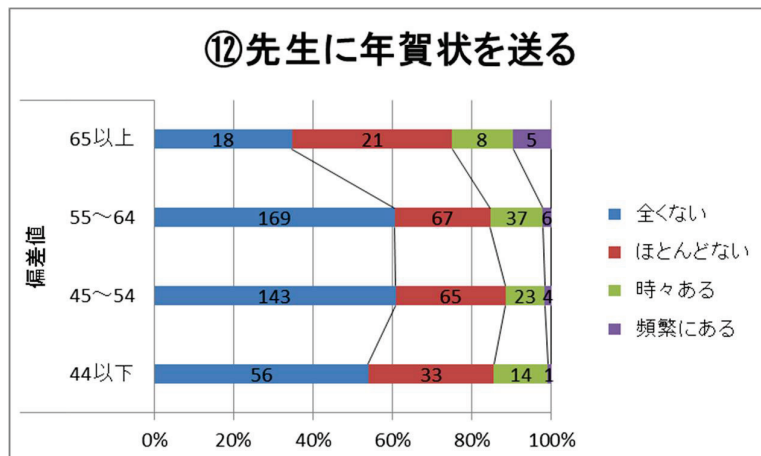
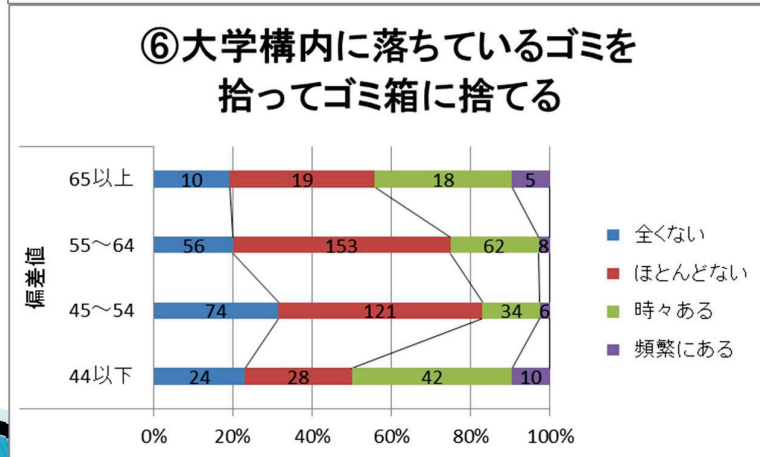
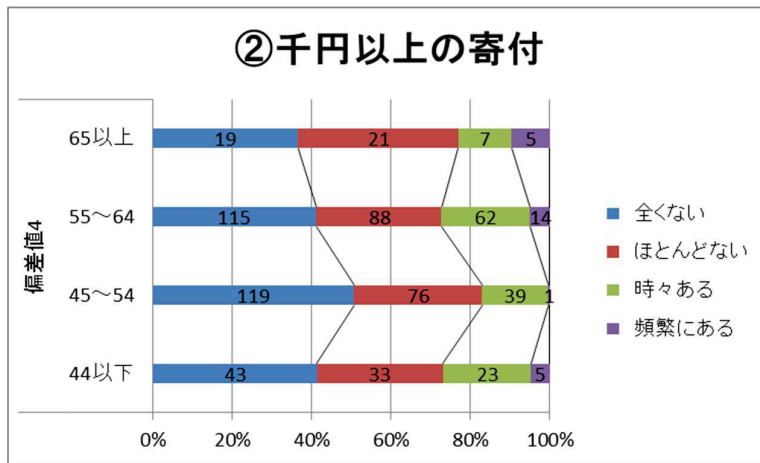
- ▶ 独立な2群のデータが得られたとき、母集団の分析関数が同じといえるかどうかの検定を行う
- ▶ 2つの群の間で、どちらのほうが大きいい値をとるのかという順序に関する判断を繰り返し、どちらの群のほうが大きいい対があるかを数える
- ▶ 母数を仮定しない
- ▶ t検定よりも有意差はでにくい

第1群の観察値	1.2, 1.5, 1.8, 2.6
第2群の観察値	1.3, 1.9, 2.9, 3.1, 3.9

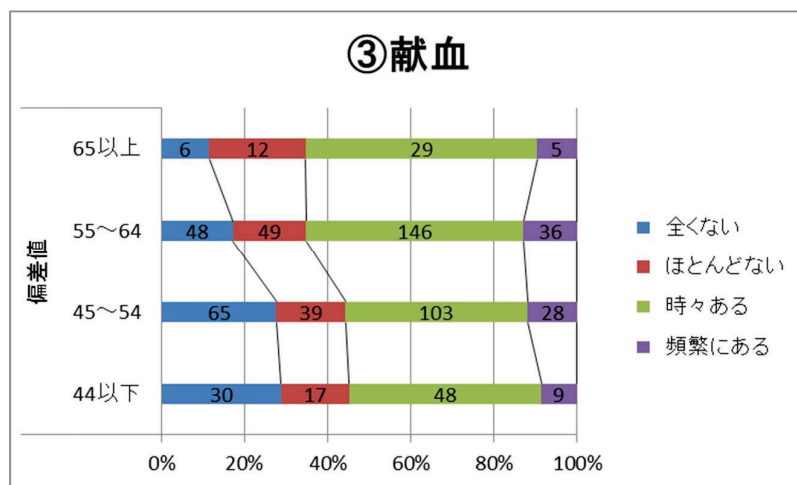
観察値	1.2	1.3	1.5	1.8	1.9	2.6	2.9	3.1	3.9
順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9
群別	1	2	1	1	2	1	2	2	2

はっきりとした傾向が見られないもの

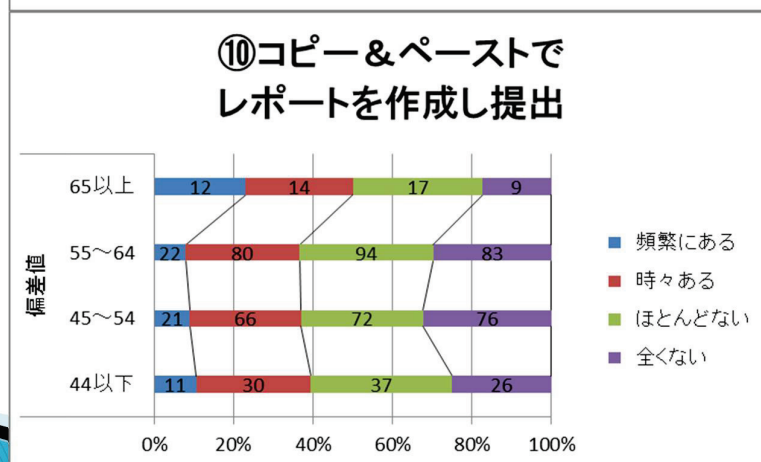
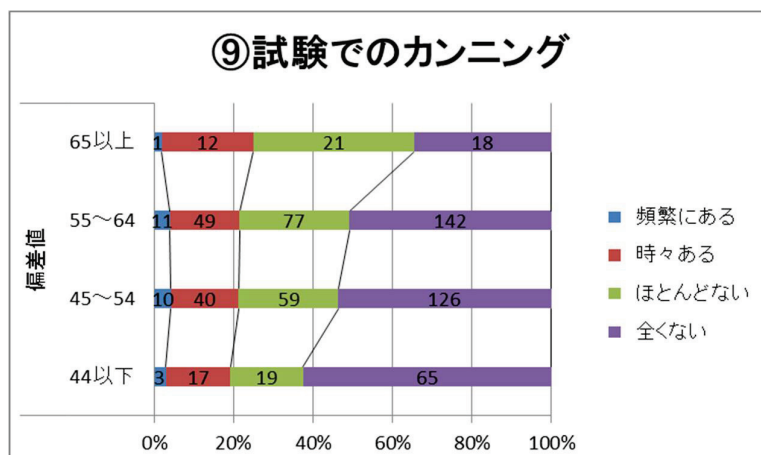




有意な差ではなかったもの

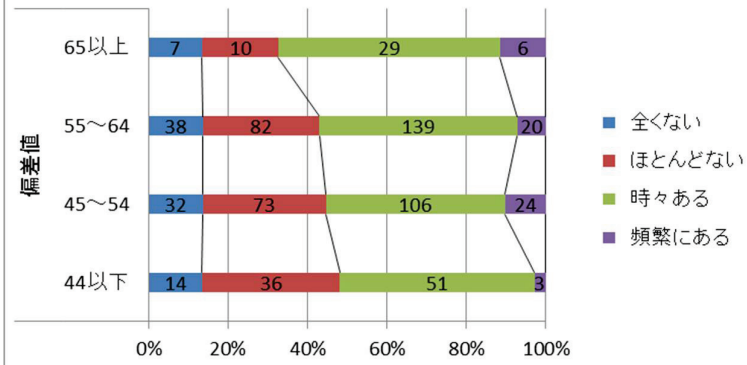


43

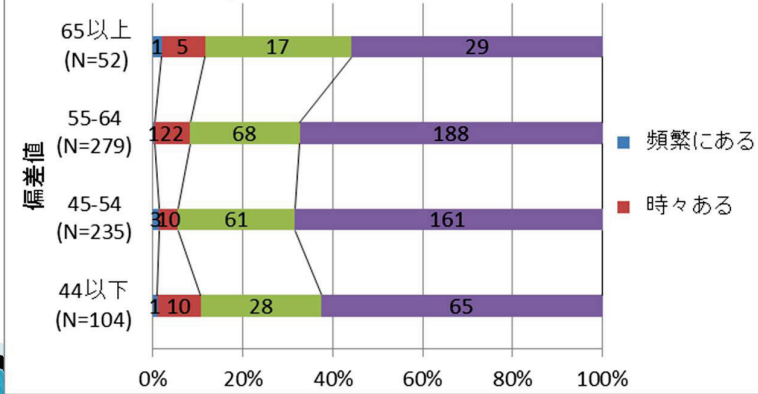


44

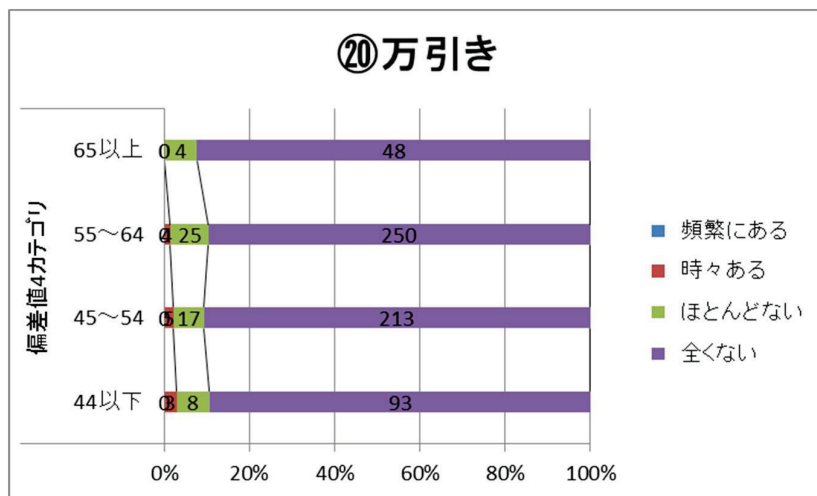
⑰電車・バスで席を譲る

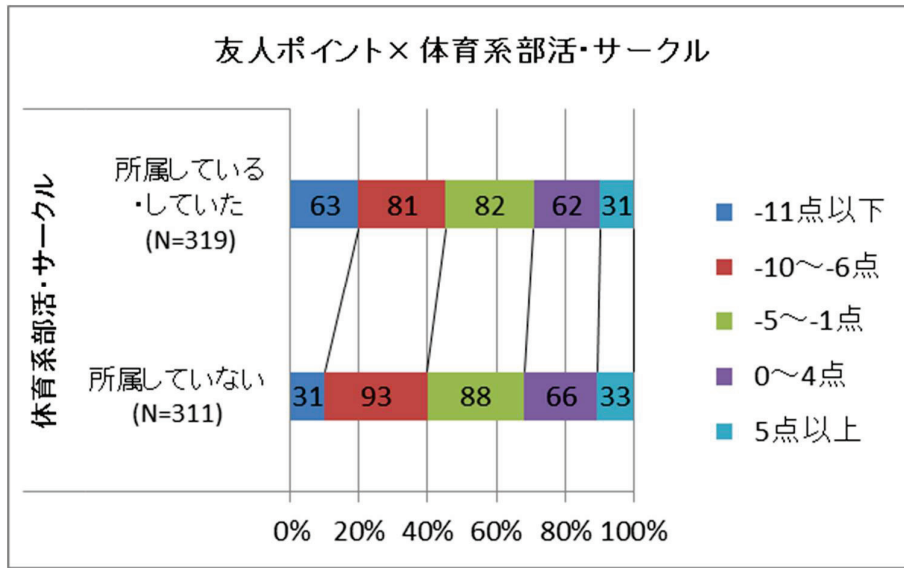


⑱電車・バスの不正乗車

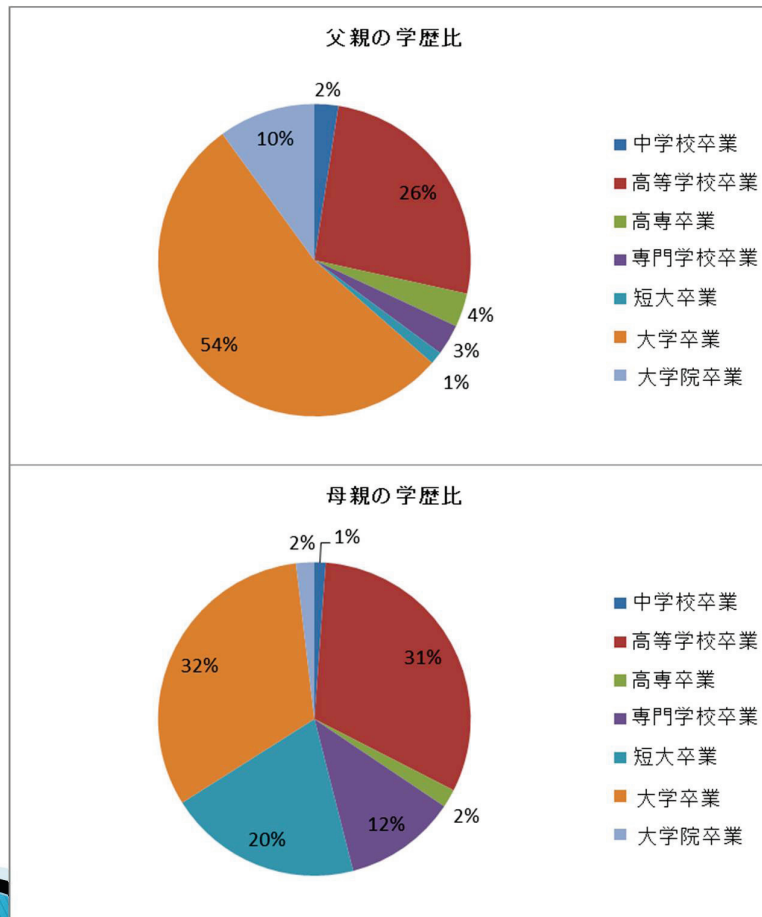


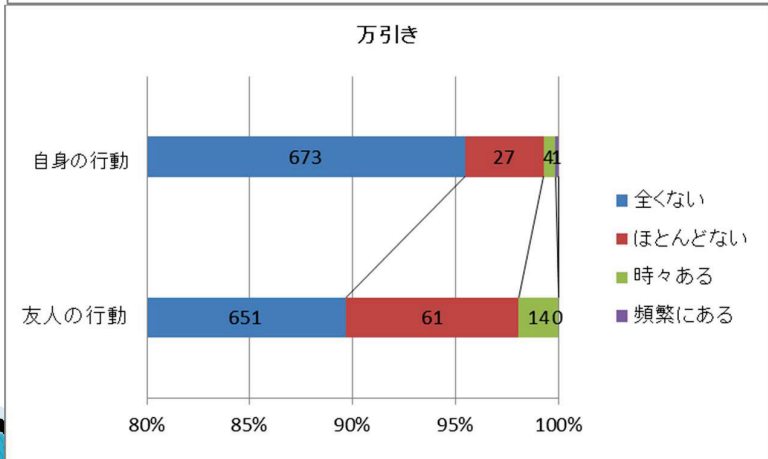
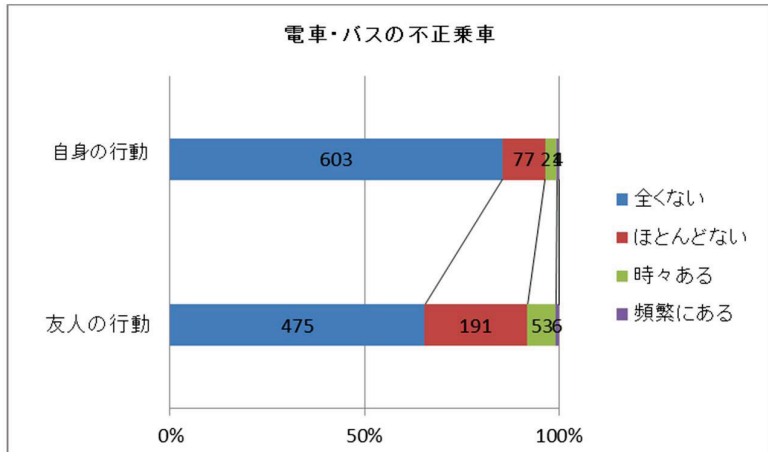
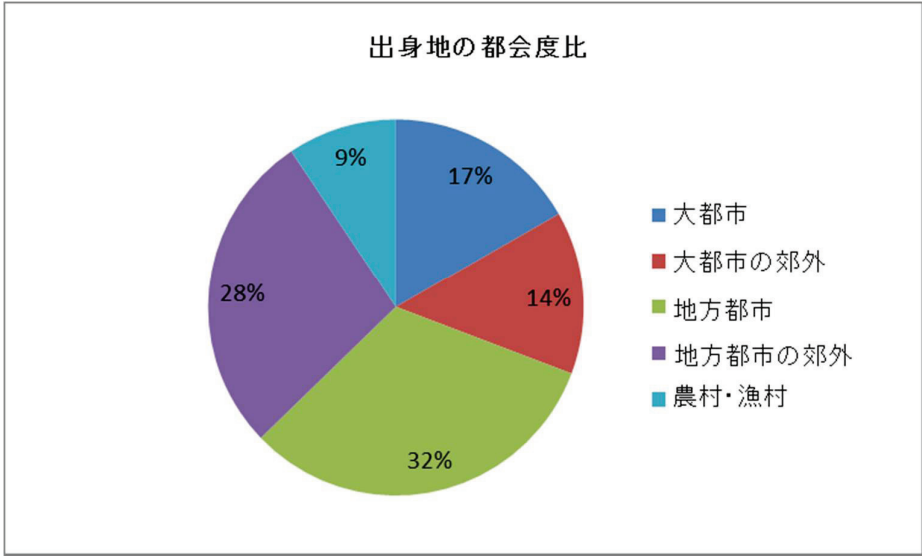
⑳万引き

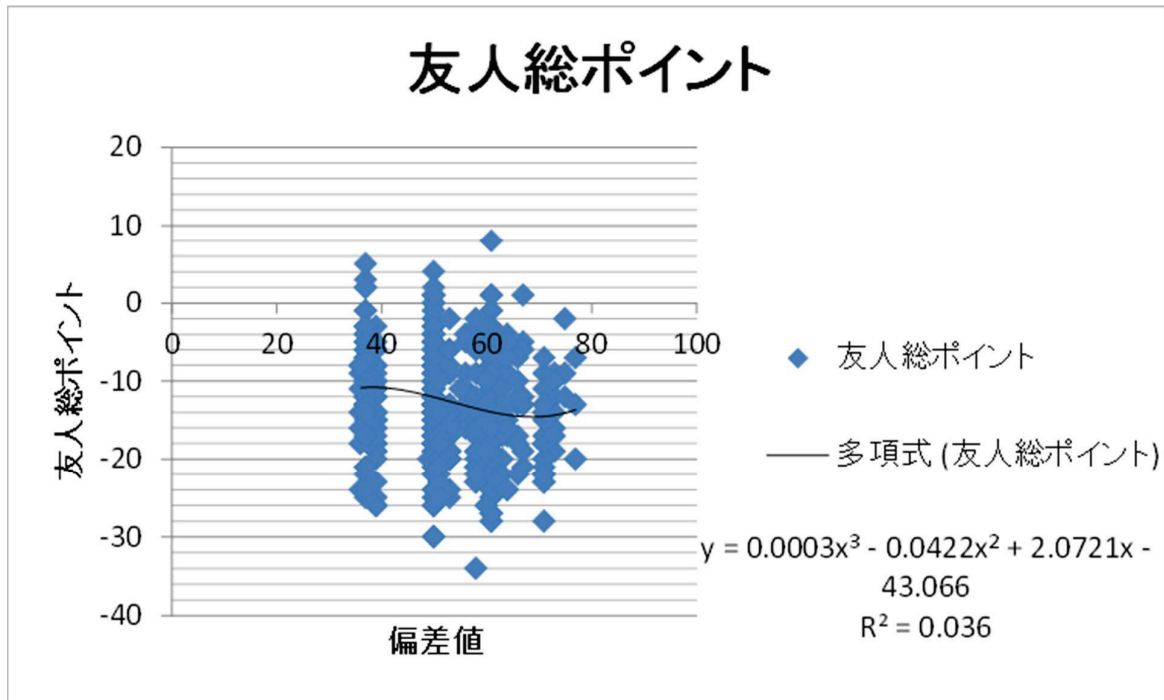




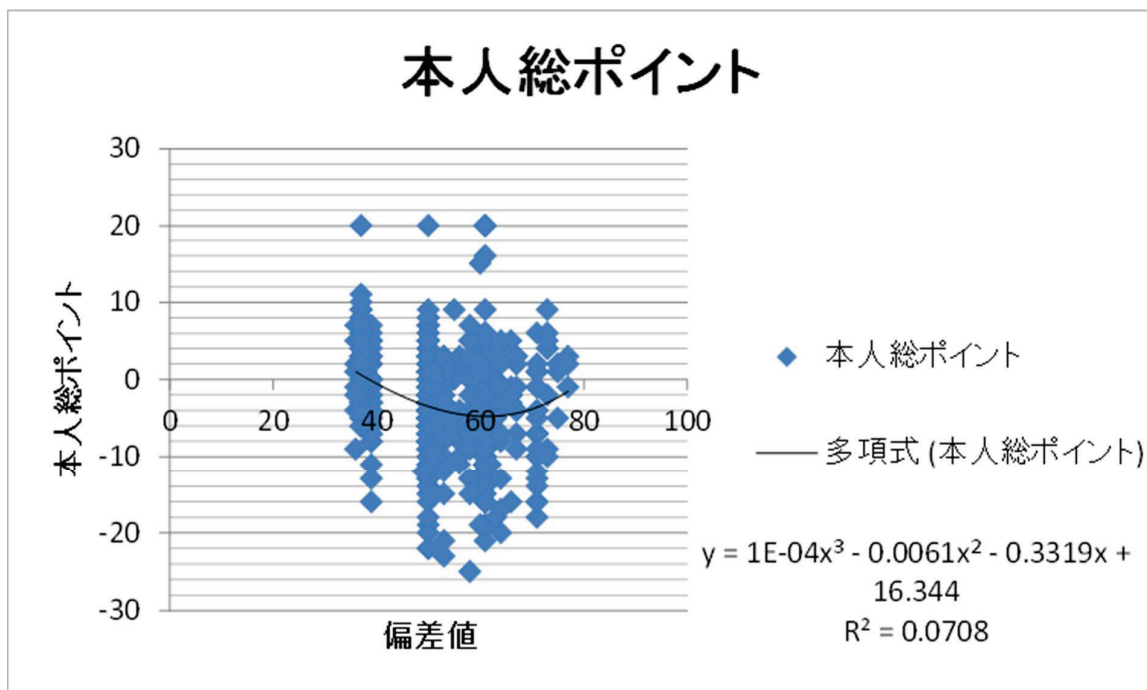
値	自由度	漸近有意確率 (両側)
12.02	4	.017







51



52

